

石原明先生退職記念号「献辞」

石原明先生は、二〇〇五年三月三十一日をもって神戸学院大学を退職なさいます。法学部教員一同から先生への敬愛と感謝の念を込めて、ささやかではございますが本書を献呈させていただきます。

先生は、一九三三年一〇月、京都府にお生まれになり、立命館大学法学部をご卒業後、京都大学大学院法学研究科を修了され、六八年四月、開設二年目の本学法学部に助教授として赴任されました。開設期には、受験生を集めるために近隣の高校を他の先生方と手分けして訪問されたなどのご苦勞もあつたやに伺っております。

先生は、七五年四月に教授となられ、二〇〇四年四月より特任教授に就任されました。その間、七六年一月から翌年九月まで学生部長として、七九年五月から八一年三月まで法学部長として、本学・法学部の発展に多大なご貢献をなさいました。本学・法学部の隆盛は、石原先生が学生部長・法学部長としてご尽力された賜物と存じ上げます。

先生は、刑事法の専門家として数多くの研究業績を公表されておられます。その中でもご労作「医療と法と生命倫理」神戸学院大学法学研究叢書第八巻（日本評論社・一九九七年）は、この分野においてパイオニアとなつた名著であると高く評価されております。

先生は、講義の終了後、毎回、小テストを実施されておられました。教務補助制度などのない時代において、用紙の配布・回収をおひとりりでなされ、学生の教育に尽力されておられました。また、ゼミでは、毎年、刑務所

見学を実施され、学生に対して常に社会との接点を意識させておられました。

学生の多くが先生の人間味溢れるお人柄に惹かれ、先生をお慕い申し上げているのと同様に、私も教職員も石原先生とともに酒を酌み交わし、カラオケを楽しみ、剣道や社交ダンスに励んで参りました。また、先生は「チョウ博士」として外国までチョウの採集にお出かけになるなど、多くのご趣味をおもちでございます。

ご退職後も先生には非常勤講師として引き続き学生ならびに私ども後進のご指導をお願いしておりますが、今後、ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

二〇〇五年三月

法学部長 岡田豊基